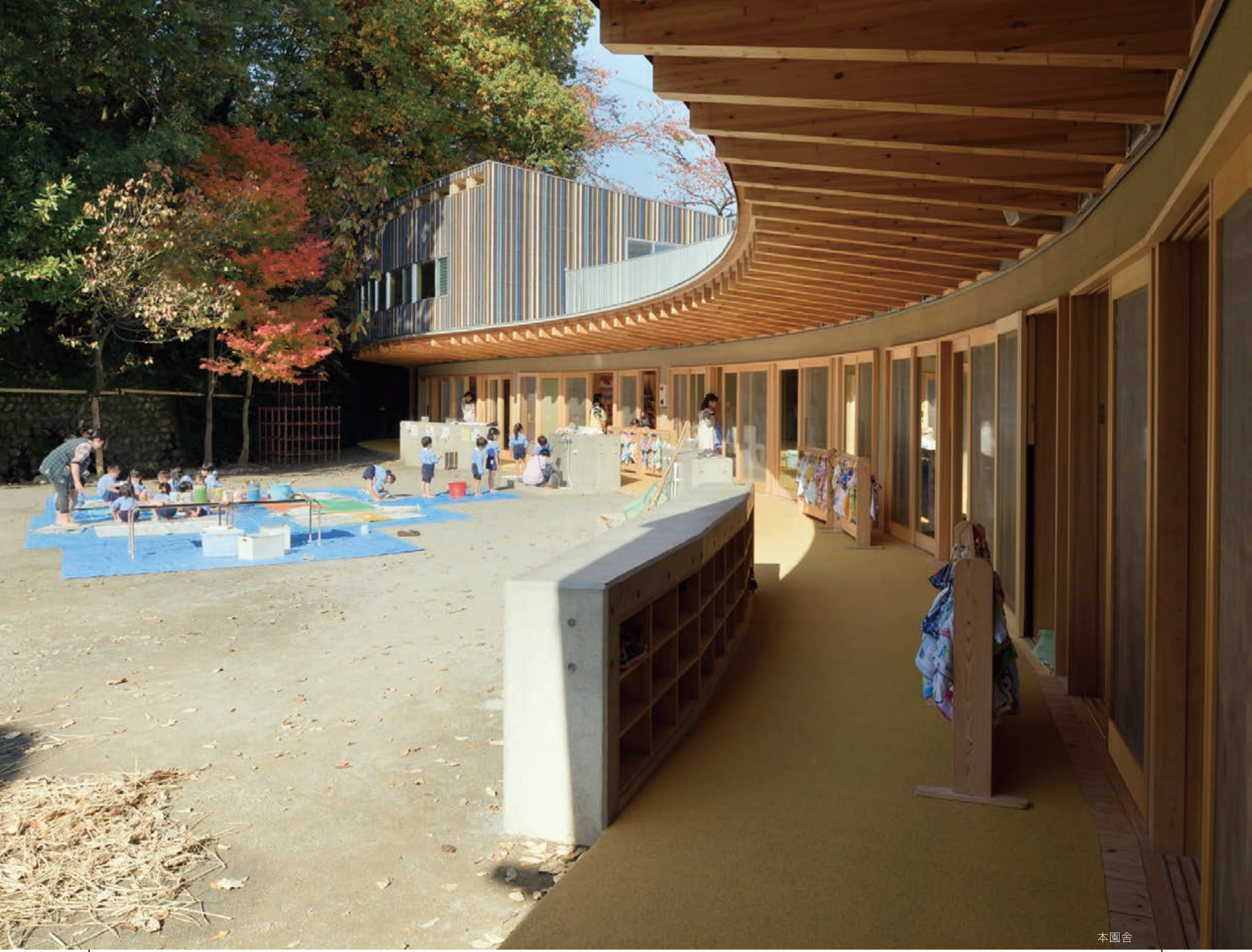


本園舎

03

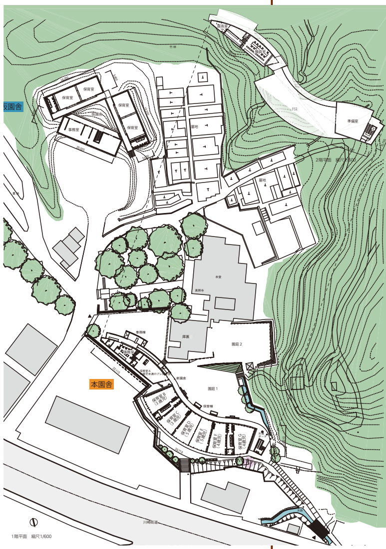
優秀賞

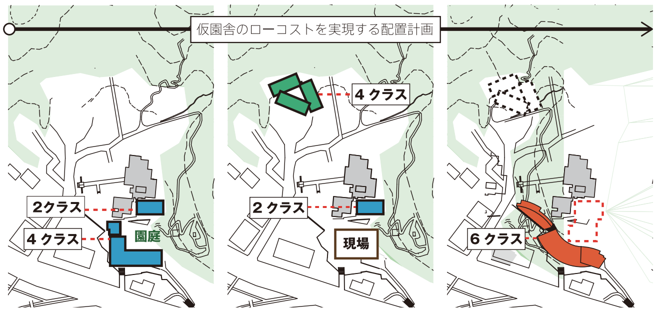
日野わかくさ幼稚園

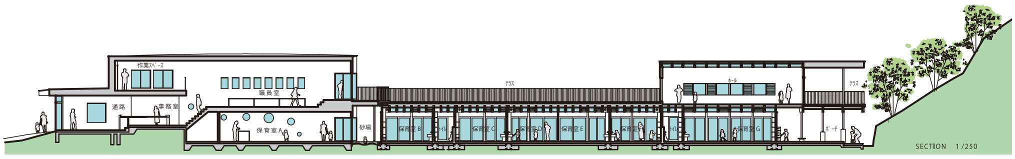
受賞者
施　主　学校法人 清谷学園 日野わかくさ幼稚園
設計者　株式会社彦根建築設計事務所 彦根アンドレア
施工者　株式会社 和田工務店

日野わかくさ幼稚園は百草園駅から徒歩２分の場所にある。ここはわかくさ山を中心とする小高い山の麓で、真照寺を中心にわかくさ山と周辺の山を回遊できる広大な敷地にある、６クラス編成のこぢんまりとした幼稚園だ。半世紀近く大切に使われてきた木造園舎の建て替えは「再度、木造で」という強い希望があった。新園舎では山、寺、地域周辺の環境を一体に繋ぐと同時に、自然と共に生きる園の方針を建築に具現化したいと考えた。山と道路の両側を全面開口としたオープンな教室が園庭を扇状に囲むようにして配置し、斜面に沿って二段に分かれた園庭は山へと緩やかに繋がる。事務棟はバスで登園する園児達の玄関口。また交番横には徒歩での通園用に用意したアプローチは山裾から湧き出る小川に沿って散策が楽しめる場になっている。

園児達は建て替えに当たり1年近く仮園舎で生活することになるため、SE構法を用いた仮園舎を建造した。また建築の面白さに触れる時間としたいと考え園児・父母・職員などが建築に関われる「参加型幼稚園」というプロジェクトとした。仮園舎に続き、本園舎建設の際も親子や地域の人達と共に教室の壁や外壁の屋久杉材をペイントし、完成させた。このプロジェクトは、建物への愛情が深まり、幼稚園を取り巻く地域や環境との関係を再構築する機会となった。終始笑顔の絶えない幸せなプロジェクトが子供達の記憶に残るだろう。

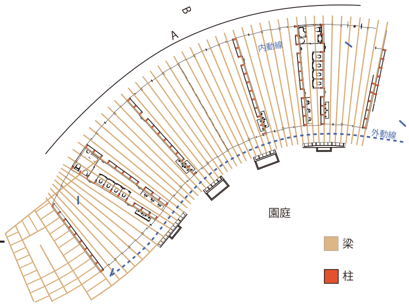






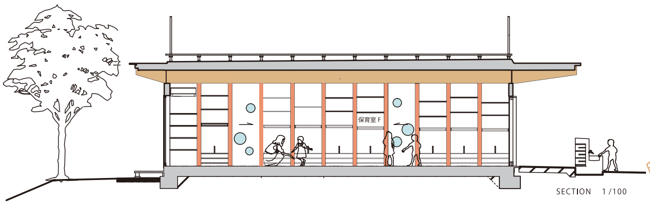
木材活用

構造材には大断面集成材を使用。家具と床材には地域の多摩産ヒノキとスギを使用し伐採などの森林の循環に貢献。
外壁、デッキ、ボードウォークなどは地域再生を考え、防腐性、防蟻性、強度の強い屋久島地杉を使用する。それぞれの材料は現しとし、子供たちが触れられるようにして、木材の良さを体で感じ記憶できるように考えた。



構造について

扁平柱を扇状に配することでA方向の壁無しに耐力を担保し、B方向への開放性を可能にしている。突き出し梁で大きな軒をつくり柱を落とさない開放的な外動線をつくり出している。



保健室の自由度を上げ明るい場所をつくるため、園庭に中心点をもつ放射状の扇形平面とし、半径方向には保健室の間に壁を設け円周方向には壁をなくし開放的な空間となる形を基本プランとした。水平力に対し半径方向は耐力壁形式、円周方向はラーメン形式を採用し、木造ラーメンは大断面集成材を使わず、安価な住宅用の中断面集成材とプレカットでできる引きボルト式ラーメンとした。120×360の中断面集成材の扁平柱を保育室と保育室の境に910mmピッチで立てることにより、奥行360mmの収納壁として使えるように考えた。円周方向へ梁を架けた場合、梁のスパンが16mを超えてしまうことから小梁は半径方向園庭を中心に扇形状に架け渡すことにした。これにより半径方向の小梁は保健室スパン10mに両端の軒の跳ね出しを加えた長さ約12.7mの搬送限界ぎりぎり長さの1本もの集成材とし、扇形の保育室天井に放射状に現しで架け渡した。視線が園庭の中心に向かう方向性を与えると共に、軒桁支点部の梁と梁の間に窓を設ける事でより、梁それぞれの流れが協調された。
（構造設計：稲山正弘）

仮園舎

本園舎

受賞概要・講評

東京都日野市落川に所在する幼稚園。半世紀近く親しまれてきた木造の旧園舎の建て替えが、再度木造にて行われた。建て替えにあたり、東京都の多摩産材が家具やフローリングに用いられた他、屋久島の地杉も柱や外壁等に活用されている。
本作品については、木を用いた仮園舎や園児・父母等関係者が一体となった園づくりといった、建築のプロセスに優しい目線がある点、また子供目線で作られた可愛らしくきめ細やかなデザイン等が評価された。

撮影：Nacasa & Partners

エントランス / 階段状ベンチ

04

女性活躍賞・奨励賞

TOKIO MARINE CAREER DEVELOPMENT CENTER

受賞者

女性活躍賞
東京海上日動火災保険株式会社　永田 さくや
株式会社三菱地所設計　森本 順子
清水建設株式会社　粟野 梨実菜

奨励賞
施　主　東京海上日動火災保険株式会社
設計者　株式会社三菱地所設計
施工者　（仮称）東京海上日動西落合研修所新築工事共同企業体

本作品は、都心でありながら緑豊かな公園に隣接する、東京海上グループの宿泊付研修施設。約450人収容可能な大会議室、約20人が利用可能な小会議室が11室、朝昼夜３食提供のカフェテリアを有する研修棟と、計240人が宿泊可能な宿泊棟の２棟が一体となっている。

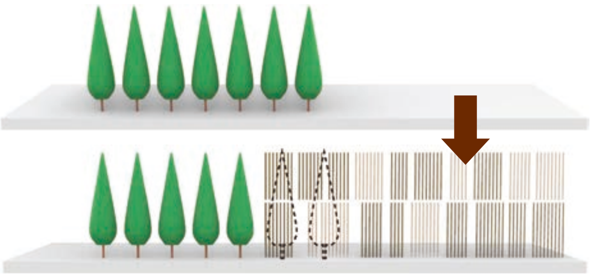
国産材を活用した地域創生を図るため、総立米数105.15㎥の木材を、建物の外装・構造・内装・家具・サインと多岐にわたり使用した。多様性を尊重する企業理念に基づき、様々な木材の使い方で空間の多様性を表現し、ディスカッション・集まる・休憩とシーンや気持ちに合わせて選択できる空間をつくった。

・地域の景観に連続する「ヒノキ無垢材外装ルーバー」（W240× t 40）
・流通材を活用した「120角から35角へと木材サイズ・空間が変わる溜まりの場」
・気づきが生まれる「CLT製ベンチ・国産材９種のハイテーブル」
・迎え見送る「CLT造木材現しの門」

これらを通して、木の温もりに包まれたリラックスできる空間の中で、コミュニケーションやチームワークをディベロップする「Nest」を作り出した。

地域の景観に連続する外装

既存樹木の一部の伐採を余儀なくされたが、天然木のスクリーンに代えることで既存樹木に続く新たな並木をつくる

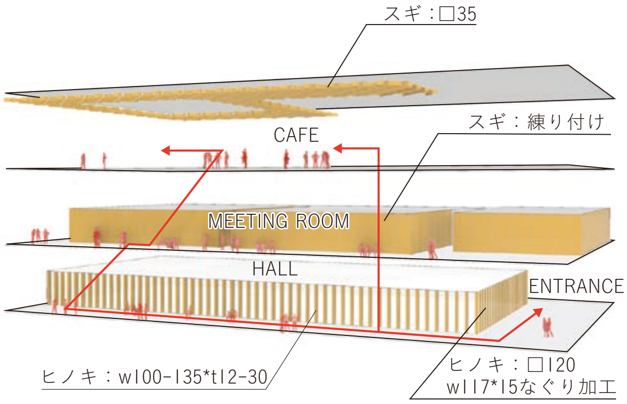


敷地半分に林立する既存樹木

宿泊棟 外装ヒノキ無垢材ルーバー

木材の多彩な利用による空間

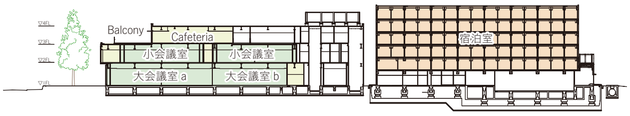
エントランス、ホワイエ、カフェへと、フォーマルからカジュアルに変化する空間に呼応し、木材形状も120 角・W100＊t12・練り付け・35 角などとサイズを変化させ、なぐり加工・格子形状と木材の表現を組み合わせることで、多様な木材のあり方を追求し、多様な空間演出を行った。



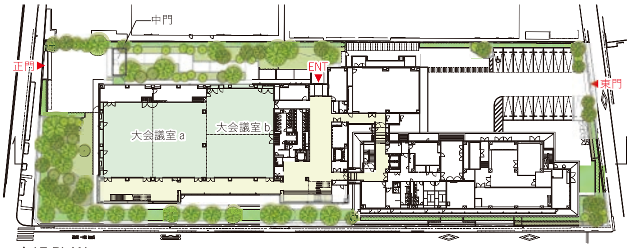
迎え見送るCLT造の門

防火構造が必要なところ準耐火構造とし、燃え代設計を行うことで木材現しを実現した。庇を大きく出し、雨掛かりに配慮し、壁はCLTに隙間を開け照明を仕込むシンプルな構成とし、木材の魅力を引き出した。

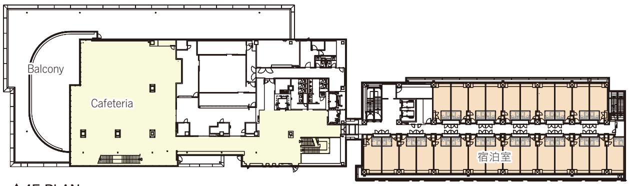
CLT 造木材現しの門



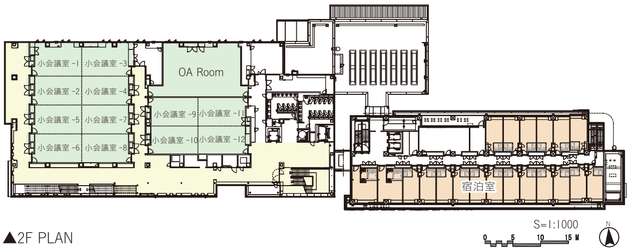
▲Section　研修棟　宿泊棟



▲1F PLAN



▲4F PLAN



▲2F PLAN

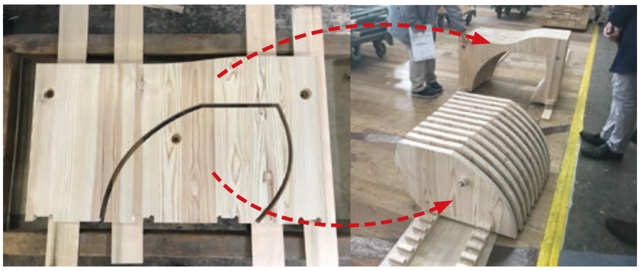
1Fエントランス　節のある表情が特徴的なヒノキ120角の飾り壁・ルーバー

1Fホワイエ 凹凸のあるヒノキ壁・CLT ベンチ・スギ天井ルーバー

2Fホワイエ スギの赤白混合練付壁・CLT製ベンチ

気づきが生まれる仕掛け

各ホワイエ空間の木材を利用した家具には、産学学習の研修の休憩中に気づきが生まれる仕掛けを盛り込んだ。1枚のCLT から2つのパーツを無駄なく切り取り、外側同士、内側同士を並べることで、2つのベンチを制作した。形状、高さも異なるベンチだが、並べて配置し「地と図」の関係であることが垣間見れる仕掛けとした。



受賞概要・講評

TOKIO MARINE CAREER DEVELOPMENT CENTERは、東京都新宿区西落合に所在する保険会社の宿泊付研修施設である。建物内には岐阜県、茨城県、高知県等日本各地から調達した多様な樹種の木材が内外装・構造・家具等多岐にわたり活用されている。

女性活躍賞

本施設の建設に際し、永田氏・森本氏・粟野氏はそれぞれ施主・設計・施工の第一線で活躍された。各社に同年代の女性がいたことで、互いに意見を言いやすい雰囲気づくりやスムーズな意見交換ができ、女性目線を活かした３者一体となった建物づくりが行われた。

奨励賞

本作品については、天井のルーバーやCLTのベンチ等、施設内に多様な木の表現が施されている点、また外壁のデザインと既存樹木の調和性等が評価された。

撮影：©Nozomu Shimao/ 株式会社エスエス